

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	金子みすゞ『こだまでしょうか』とCM放送：読者、視聴者はどのように詩を受けとるのか
Author(s)	ジャイエ恩 ハンニッサ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 29期: 129 - 142
Issue Date	2014-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038695
Right	
Relation	



金子みすゞ『こだまでしょうか』とCM放送 — 読者、視聴者はどのように詩を受けとるのか —

ジャイエーン・ハンニッサ

1. はじめに — 金子みすゞとの出会い

スラバヤ市にあるアイルランガ国立大学の日本研究学科の「日本詩論」の授業で金子みすゞの生涯について書かれたものを読んだ。そして、誕生日が筆者と同じと分かり、彼女に興味を持った。それをきっかけに彼女の作品を読み漁った。短い人生の中で、512編の作品を生み出し、作品を読むと、ひじょうに印象に残る詩人だ。最初に読んだ作品は英語に訳された『積もった雪』だった。あるブログ¹で絵手紙に使われた Layers of snow 『積もった雪』を見つけたのだ。



『積もった雪』

上の雪
さむかるな
つめたい月がさして

下の雪
重かるな
何百人ものせて

中の雪
さみしかろな
空も地面もみえない

“Layers of Snow”

Top layer, you must be shivering in the frosty light of the moon.

Bottom layer, you must be groaning under the weight of humanity.

Middle layer, you must be lonely, unable to see either earth or sky.

¹ <http://etegamibydosankodebbie.blogspot.jp/2012/01/layers-of-snow-misuzu-kaneko-series-4.html>

この作品を読んで、さみしさを強く感じた。雪のような無生物の擬人化はロマンチックな感じもするが、詩人の慈悲にあふれる心がひじょうに強く感じられた。シンプルな言葉で書かれているものの、強く刺激する不思議な作品だという印象が残った。

そこで、他の作品も次々に読んでみた。そして、インターネットでいろいろ調べていた時、ユーチューブで2011年3月11日の東日本大震災の後に放送されたACジャパンのCMを見つけた。そのCMは『こだまでしょうか』を使っており、これにもひじょうに興味を持った。

『こだまでしょうか』

「遊ぼう」っていうと

「遊ぼう」っていう

「馬鹿」っていうと

「馬鹿」っていう

「もう遊ばない」っていうと

「遊ばない」っていう

そうして、後で

さみしくなって

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていう

こだまでしょうか、

いいえ、誰でも

このCMでは女性のナレーターが優しく温かい声で朗読しており、まるで「みずゞ色に染まった世界」と感じた。優しい母親というイメージがあった金子みずゞが直接耳元で囁くように、心を癒してくれるものだった。最後の部分、「いいえ、誰でも」は余韻のように心に美しく響いていた。CMのタグラインの「やさしく話しかければ、やさしく相手も答えてくれる」という言葉も心にしみた。このCMが気に入り、もっと調べてみたくなった。すると、あるブログでこのCMに対する批判を見つけた。そのブログを読み、このCMは『こだまでしょうか』を使い、視聴者に人を思いやる心を持つと提案しているだけなのにおかしいと思った。このようなすばらしいメッセージを伝えるCMがどうして視聴者に不快感を覚えさせたのだろうか疑問に思い、これについて詳しく検討しようと思った。

2. 『こだまでしょうか』を使ったACジャパンのCM

2. 1. ACジャパンのCMの放送の問題・東日本大震災直後のCMを自粛について

「特集広告市場/メディア再編」の記事によると、東日本大震災の直後、多くの広告主企業も被災し、一部商品供給に支障が出るなど大きな損害が発生した。この状況の中、各

広告主はそれぞれの事情に応じて、自社の広告出稿を自粛し、その代わりに「公益社団法人 AC ジャパン」（旧・公共広告機構）の CM が挿入される（「AC 差替え」）結果となった。

さて、AC ジャパンとは何か。AC ジャパンのホームページ²によると、1971 年に設立され、「民間の力で、少しでも世の中のお役にたつ活動をしたい」という理念で、民間の企業と団体等が協力して運営しており、社会にとって有益なメッセージを広告という形で発信している CSR（Corporate Social Responsibility）活動する民間団体である。「特集広告市場/メディア再編」の記事によると、AC ジャパンの理念に賛同し、AC パートナーとして活動する会員社（企業・団体）は約 1200 社あり、公的資金を使わず、会員社の会費で運営する。AC ジャパンは様々なテーマキャンペーンを展開し、社会貢献につながるメッセージをメディアに発信している。その CM はテレビ局の CSR 活動の一環として放送されるだけでなく、企業が CM を自粛する場合やスポンサーを確保できない場合などに放送される。

2. 2. 坂島明彦による CM の批判について

作家・ジャーナリストである坂島明彦は『坂島明彦（作家）の「ちょっとあぶない雑記帳」』³というブログでこの CM に関する批判を書いた。そのブログで坂島はこう述べている。

東日本大震災で、各テレビ局の報道が果たしている力は限りなく大きい。

だが、どの民放も、その報道の合間に数パターンの同じ公共広告を繰り返し流し続けている。

ほとんどの企業が CM を自粛しているので、余計にそのしつこさが目立ち、視聴者を不快にさせている。

それらの CM の最後には、「AC」というサウンド・ロゴが入っている。

AC は正式名を「社団法人 AC ジャパン」という。昔は「公共広告機構」といっていた。大震災で各企業が自社 CM を自粛した穴埋めに、民放が公共広告なら問題なかろうと流しているのである。AC が流すことを拒めば流れないが、AC はそうしていない。

今、この時期に、AC 広告は必要なのか。

CM の役割とは何か？

普通の CM の場合は、どの企業でも、好感度・好印象を消費者に与えるであろうと考える CM を繰り返し流すことで、自社の新製品の発売告知をしたり、購買意欲を刺激することで自社製品の売上アップを狙ったり、企業イメージをアップさせたりするのが大震災で各企業が自社 CM を自粛した穴埋めに、民放が公共広告なら問題なかろうと流している

² https://www.ad-c.or.jp/about_ac/index.html

³ <http://ohkowa-omosiro.cocolog-nifty.com/kotyabannba/2011/03/post-09f2.html>

のである。AC が流すことを拒めば流れないが、AC はそうしていない。本来の役割だが、しつこすぎて消費者を不快に思わせたら効果はない。

これに対し、公共広告は、ちょっと趣旨が異なる。

この文章をみれば、坂島の論旨は矛盾している。まず、公共広告である AC ジャパンに対して「普通の CM」の役割を述べ、しつこすぎて不快に思わせただからこの CM は無駄だと暗に指摘している。しかし、最後の文に書いてあるように、公共広告は趣旨が異なるのだから、論旨に一貫性がない。要するに、坂島は自分で論旨を覆している。

このブログで坂島は AC ジャパンのホームページに掲示された「『東北地方太平洋沖地震』にあたって AC ジャパン CM 放送についてのお詫びとご報告」を引用し、AC ジャパンは視聴者の言った文句がよく分かっていないようだと言っている。

視聴者が文句は、サウンド・ロゴがうるさいと文句をいっているのではないのだ。

「被災地を応援する別バージョンをつくれ」といっているのでもない。

しつこく流さないでくれ、あるいはたの民間企業同様、流すのを自粛せよと求めているのだ。

確かに、何回も繰り返し放送されたことで、視聴者に不快感を覚えさせた可能性もある。「広告市場/メディア再編」も、長期間にわたって同じ CM が大量に放映されたことで、生活者にストレスを与える事態となり、視聴者からの苦情も相次ぎ、AC ジャパンへのファクス・電話がなくなっていく状態も続いたと報告している。しかし、坂島はこの CM の内容とこの詩が伝えるメッセージについては触れていない。そして、どうして放送した者がこの CM を選んだのかも明らかにされていない。そこで、この研究ではこの CM の視聴者が『こたまでしょうか』をどのように受け取ったかを明らかにしたい。

3. 詩人金子みすゞ

3. 1. 金子みすゞの生涯と作品

金子みすゞ（本名は金子テル）は 1903 年 4 月 11 日に、山口県大津郡仙崎村に生まれた。父親、金子庄之助は清国に渡海し、「上山文英堂書店」の営口支店の店長として仕事をしてきた。2006 年 4 月 20 日の読売新聞の記事によると、庄之助は 1906 年 2 月 10 日に死去し、金子家では清国の馬賊に殺されたと伝わってきたが、実は庄之助氏の死因は急性脳いっ血だったようだ。父親が亡くなった後、金子家は母親ミチと祖母ウメ、そして二歳年上の兄堅助と二歳年下の弟正祐、五人家族だった。そして、正祐は一歳の時、ミチの妹フジの家族、上山家に養子としてもらわれていった。家族の生活を支えるため、祖母と母親は本屋「金子英堂」を開き、経営していた。兄堅助は進学せず、下関の書店「上山文英堂」で働いていたが、テルだけは女学校まで進学させてもらった。

父親がいなくても、祖母と母親のおかげで、金子家はいつも明るかった。2人はいつも堅助とテルに「お父さんは見えないけれど、いつもみんなのそばにいて、守ってくださっている」と言い聞かせていた（山下 2011）。金子家は仏教を深く信仰し、毎日仏壇の前で手を合わせる。このような環境で、テルは、目に見えないものも存在していると信じていたのだろう。こういう考え方はみすゞの作品によく出てくる。例えば、『星とたんぼぼ』という作品がある。

『星とたんぼぼ』

青いお空の底ふかく
海の小石のそのように
夜がくるまで沈んでる
昼のお星はめにみえぬ
見えぬけれどもあるんだよ
見えぬものでもあるんだよ

散ってすがれたたんぼぼの
瓦のすきに、だまって
春のくるまでかくれてる
つよいその根はめにみえぬ
見えぬけれどもあるんだよ
見えぬものでもあるんだよ

テルは 1910 年に瀬戸崎尋常小学校に入学した。担任の先生や同級生によると、テルは色々な科目、特に国語が得意で優等生だった。少し内向性だが、先生方にたいして礼を尽くし、誰に対しても優しく、心持の豊かな人だったそうだ。

友達と遊ぶ時、家の中でも外でも元気に遊んだようである。おはじき、カルタ、鬼ごっこなど、色々なことに興味を持ち、よく遊んだ。しかしテルの従姉、前田リンによれば、親戚の家を訪ねた時、家の中で大人しく本を読んだり、一人で遊んだりするのが好きだったそうである。

1916 年に大津郡立大津高等女学校に進学した。小学校の時と同じように、テルは頭がよく賢い優等生で、友達もたくさんいて誰にも愛される人だったそうだ。大津高女の同窓会誌『ミサヲ』の第三号から第六号までにテルの文章がたくさん見られる。

そして、20 歳の時、テルは童謡詩人としてデビューを始めた。「みすゞ」というペンネームを使い、自分の作品を色々な童謡雑誌に投稿した。彼女の作品、『お魚』は 1923 年 9 月刊『童話』に採用された。

『お魚』

海の魚はかわいそう

お米は人につくられる
牛は牧場で飼われてる
鯉もお池で麩を貰う

けれども海のお魚は
なんにも世話にならないし
いたずら一つしないのに
こうして私に食べられる

ほんとに魚はかわいそう

みすゞは彗星のように現れ、瞬く間に、当時の大童謡詩人である西條八十に「若き投稿詩人中の巨星」と絶賛され、日本中の文学少年少女のあこがれの星になった（矢崎2002）。

23歳の時、叔父・松蔵の提案で、1926年2月17日にみすゞは上山文英堂で働く番頭候補・宮本啓喜と結婚した。同じ年、11月14日に長女・ふさえが生まれた。しかし、結婚生活はあまりうまくいかなかった。夫・宮本はみすゞが童謡詩を書くことがあまり気に入らなかったようで、みすゞに詩を書くことを禁じた。それだけでなく、宮本はよく遊郭に通い、みすゞに淋病をうつしもした。こういう夫と一緒に暮らすことを辛く思い、1930年2月27日に離婚する。離婚した後、宮本はお金をとるためふさえの親権を持つとした。当時、親権は父親にしか認められなかったそうだ。そういう人に大事な娘を渡したくないと思い、彼女は自殺を決意する。3月9日に肖像写真を撮りに行ったり、家族と一緒に楽しく好物である桜餅を食べたりした。そして、ふさえが母親と寝ついてから、みすゞは自分の部屋で服毒自殺し、翌3月10日に遺体が発見された。夫宛と母親宛、2つの遺書を残し、ふさえは母親の下で育てて欲しいという願いを書き記していた。

幼い時に父親を亡くし、結婚もうまく行かず、別れた夫と親権で揉め、まだ26歳の若さで自ら命を絶ったということで、みすゞには「薄幸」というイメージがある。しかし、その短い人生の中でたくさんの童謡詩を書き、全部で512編もの作品が残された。死去した後、50年以上彼女の生涯や作品は忘れられていたのだが、1983年12月、朝日新聞にみすゞの遺稿と詩の全集の発行が報じられた。翌年、『金子みすゞ全集』はJULA出版局から出版され、その時から「金子みすゞブーム」と言えるほどの人気を得た。1997年にはみすゞの代表的作品、『私と小鳥と鈴と』は小学校の国語の教科書に使われるまでになる。また、2003年4月11日、みすゞの故郷、山口県長門市に『金子みすゞ記念館』がオープンする。

3. 2. 近代文学（明治時代—大正時代）の童謡運動

みすゞが書いた詩は「童謡」と分類されている。「童謡」は色々な意味で用いられており、「わらべ歌」という昔の子供の歌から概念を得ている。畑中（1990）によると、「童謡」という言葉は近世以降以下の概念を有していた。

- ① 子どもたちが集団的に生み出し、伝承した歌謡（わらべうた、伝承童謡）
- ② おとなが創作した子どもの歌
- ③ 子どもたちが創作した詩・歌（児童詩、児童自由詩）

明治後半に始まり、当時の子どもの歌は芸術性がなく低級だと批判され、もっと価値のある子どもの歌を作り出そうという提案をきっかけに童謡運動が広がり、1909年に『諸国童謡大全』という童謡研究会編が設立された。そして、1918年に『赤い鳥』という子供向けの雑誌が創刊された。『赤い鳥』の創刊を契機に、当時の童謡詩人の先達である鈴木三重吉は「芸術味の豊かな、即ち子供等の美しい空想や純な情緒を傷つけないでこれを優しく育むような歌と曲」を子供たちに与えたいと考え、そうした純麗な子供の歌を「童謡」と名付けたのである（畑中 1990）。『赤い鳥』の後を追い、『童話』、『金の船』、『少年倶楽部』などが登場した。当時の大童謡詩人である北原白秋、野口雨情、西條八十たちはその雑誌を通して若い投稿詩人たちを育てていた。この時期は童謡運動の最盛期だった。

4. アンケートとインタビュー（金子みすゞとACジャパンのCMについて）

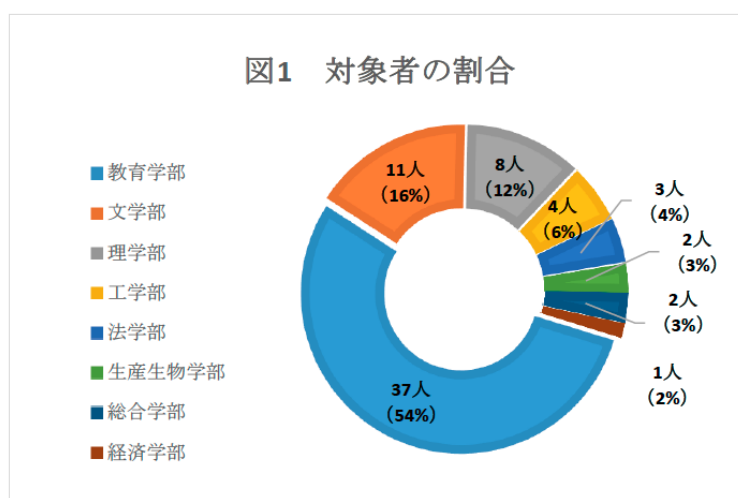
4. 1. 研究の予想

アンケート調査を行う前に、読者（視聴者）の反応は2つに分かれると予想した。まず、ACジャパンのCMの放送の頻度に影響されず、『こだまでしょうか』のメッセージを単純に、しかし深く受け取った人たちとCMの放送の頻度に影響され、作品のメッセージをあまり深くは受け取らなかった人たちがいるだろうと考えた。対象者である学生の生活感から前者が多いと推理した。そして、インドネシアでは日本人は「真面目」、「読書が好き」とイメージされている。また、1997年から、みすゞの作品、『私と小鳥と鈴と』は小学校の国語の教科書に使われているため、ほとんどの日本人、特に若者は金子みすゞの作品に関心が深く、よく知っているだろうと予想した。

4. 2. アンケート調査

アンケート調査は2014年6月から7月にわたって広島大学を対象に行い、様々な学部
の学生に協力をお願いしたのだが、その人数は図1に出ている。

対象者は体育系剣道部員（48人）、フェーダーマイア先生のドイツ語の授業で知り合った文学部の学生（9人）、そして日本語モデルクラスの担当者（11人）、全部で68人だったが、そのうち23人からは回答が頂けなかった。



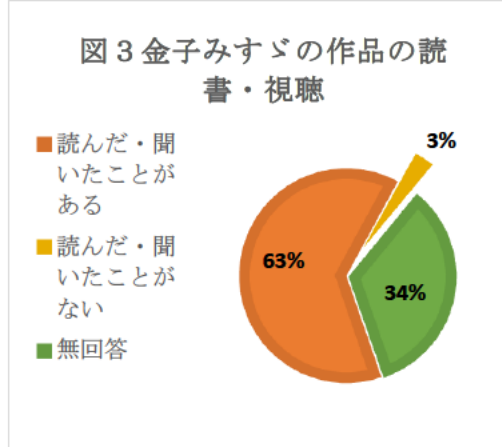
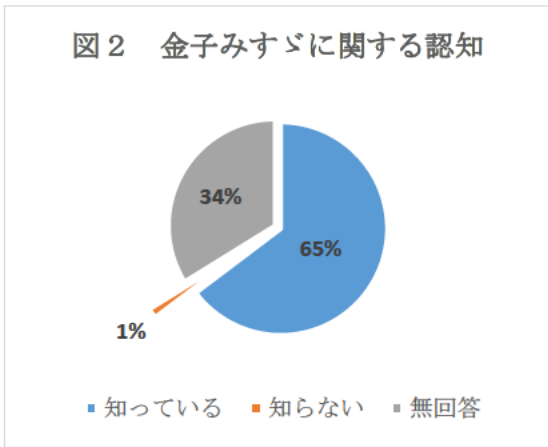


図2に示したように、45人の対象者のうち、「金子みすゞという詩人を知らない」と回答した人は一人だけだった。そして、図3に示したように、金子みすゞの作品を読んだことも聞いたこともないと回答した人は2人だけだった。つまり、予想通り、広島大学の学生は理系の人も文系の人も大体金子みすゞのことを知っていることが分かった。

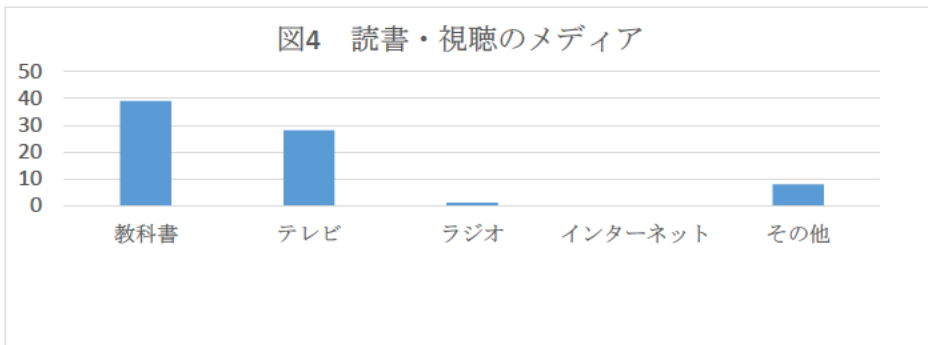
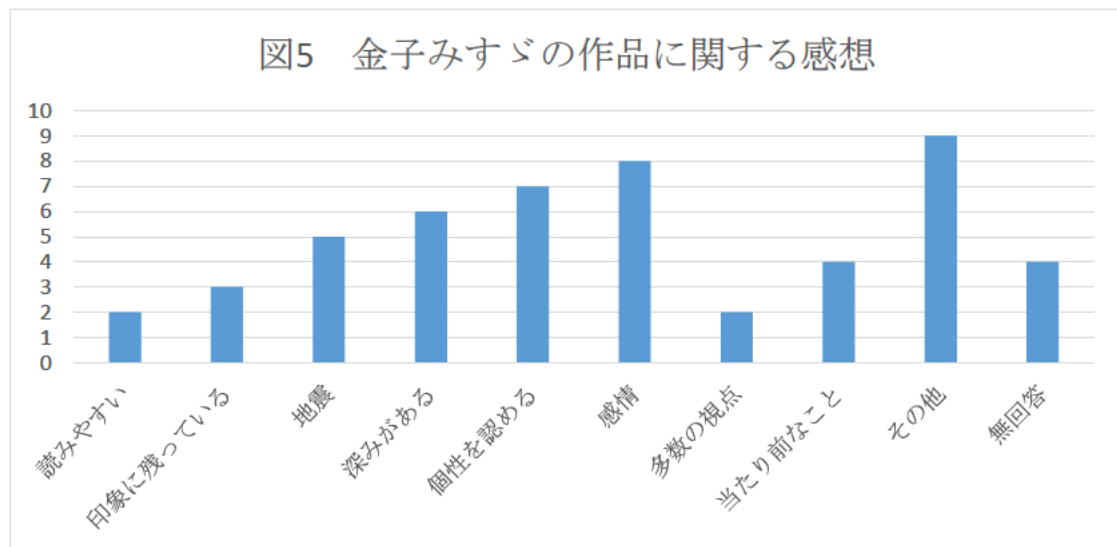


図4を見れば、ほとんどの回答者はみすゞの作品を教科書で読んだということが分かる。テレビで見た人は大震災の直後のACジャパンのCMで見た可能性が高い。ラジオで聞いた人、インターネットで読んだ人があまりいないということは、大体の回答者、つまり現在の若者はみすゞの作品に特に興味があるわけではなく、目の前にあるもの、勧められたものしか読まないのだろう。

しかし、次の図5を見れば、みすゞの作品に関する感想として、色々な言葉が出ており、回答者はみすゞの作品を好意的に受け取っていないわけではないということが明らかになった。



回答者の感想はキーワードにより8つに分けた。この8つの中に入らない回答は「その他」に、そして、感想を書いていない人は「無回答」に入れた。図5に示したように、一番多いのは「その他」である。要するに、多くの回答者は他の人の意見、世間の意見に同調するのではなく、自分の意見をそれなりに言葉にできるようだとも言えるのだろう。

4. 3. インタビュー調査

アンケートの回答者のうち、11人がインタビュー対象者となった。教育学部の学生が9人、文学部の学生が1人、そして理学部の学生が1人である。11人の中の一人が金子みすゞの生涯や作品について読んだことも聞いたこともないとアンケートで回答していたが、インタビューでは小学校のとき『私と小鳥と鈴と』を読んだ記憶が少しあると言った。一方、一人の女子学生が、みすゞの作品は知っているが、大震災が起きたとき、高校の寮に住んでおり、テレビなしの生活をおくっていたため、ACジャパンのCMについては知らなかったと言った。他の対象者はみなACジャパンのCMを見たことがあり、「特に不快とは思わなかった」と言った。

このCMに使われた作品『こだまでしょうか』についても、作品としていいものだと評価している。ただ、対象者みな意見によると、このCMの放送された時期と頻度が良くなかったそうである。視聴者はCMの頻度に確実に影響されたようだが、『こだまでしょうか』の内容、メッセージは単純だが、心に深く響いたようだ。この結果は予想と異なり、視聴者全員に不快感を覚えさせたわけではないということが明らかになった。要するに、坂島が批判するほどこのCMはひどいものとは言えない。

4. 4. 『こだまでしょうか』が表現するもの

「特集広告市場/メディア再編」の記事に書いてある通り、ACジャパンのCMは他の企業のCMが自粛された場合に放送されるようになった。放送局はACジャパンが制作したCMを放送する必要があると判断し、このCMを使うことを決定したということだ。つまり、このCMを選んだのはACジャパンではなく、放送局である。しかし、どうしてACジャパンはこのCMを選んだのだろうか。

まず、この作品の長さはCMにちょうどいい。リズムも美しく、分かりやすい言葉で書かれている。これは視聴者に受け入れられやすく、「ブランドの力」もあると言える。

そして、CMを見れば、「声の掛け合い」という『こだまでしょうか』のテーマを視覚化している。お互いにやさしく声を掛け合えば、コミュニケーションがスムーズに始まる。そして、順調にコミュニケーションが進むと、お互いに理解し合い、助け合うことができると主張する。この内容を踏まえれば、放送局は「大震災の被害者・関係者たちに思いやりを持ってお互いに助け合いましょう」というメッセージを視聴者に伝えただけなのではないかと思える。これがこのCMを選んだ理由と考えてもいいだろう。

ただ、みすゞの孤独な人生を考えれば、『こだまでしょうか』はやはり「寂しさ」を強く感じる。幼い時に父親がなくなり、父の代わりに祖母と母親が家族を支えるために働いていた。確かに、母親と祖母はいつも優しくしてくれたが、弟も叔母の家に養子として貰われて行き、兄も若いうちから家を出て働いていた。そういう家庭で育ったみすゞには話し相手はあまりいなかっただろう。友達がいたとしても、よく分かってもらえない経験は誰にもあるはずだ。大人になり、結婚したあとも、夫から淋病を移されたみすゞはふさえに移ることを心配し、一緒に過ごす機会は少なくなった。彼女の代わりに、祖母に世話をしてもらったため、母と娘の関係はあまりよくはなく、愛する娘に話しかけても答えてもらえないことも多かったようだ。寂しくてたまらないみすゞは人と言葉を掛け合うこと、つまりコミュニケーションの大切さがよく分かっていたから、こんな作品を作ったのではないだろうか。

「助け合いましょう」と語りかける一方で、家族や友人、知人をなくした被災者に「寂しさ」を強く感じさせた可能性がある。会社、企業がコマーシャルを自粛したために放送されたこのCMは大震災という特殊な「文脈」を得て、それまでの生活で言葉を交わしていた家族や知人をなくした人にとって「喪失感」を強く表現したに違いない。それを考えれば、視聴者、特に被災者の中にこのCMを止めて欲しいと思う人がいておかしくない。

このCMを批判した坂島はこの作品のメッセージをどう見ていたのだろうか。確かに、何回も繰り返し流さないで欲しいという主張は間違っていないが、彼は視聴者の立場から発言したと見えてはいても、実は視聴者の心の奥にある気持ちがよく分かっていたのではないだろうか。

5. おわりに この研究を終えて

この研究では東日本大震災の直後に放送された AC ジャパンの CM に対して出た批判を問題ととらえ、この CM に使われた『こだまでしょうか』に視聴者、読者がどう反応したかについてアンケートとインタビューを行い、調査した。

東日本大震災の直後、ほとんどの企業が CM を自粛したため、その代わりに民放が AC ジャパンの CM を放送したのだが、普段流されていた CM がいないため、AC ジャパンの CM がひじょうに目立ったということが分かってきた。

『こだまでしょうか』を読むと、人が誰かに話しかけるイメージが目につく。作品に書かれているように、同じ言葉がこだまのように繰り返し、自分の言った言葉が自分に返ってくることをイメージしている。つまり、コミュニケーションにおいて、まず自分から相手に優しく話しかけること、そして、誰かが言ってくれた挨拶などにちゃんと返事をする、それが大事だと言っている。この CM を流した人たちは、こういうことから始まり、お互いに助け合うことができるようになるというメッセージを視聴者に受け取ってもらいたいと考えたのだろう。この作品は詩として単純すぎるとも見えるが、CM で使うメッセージとしては適している。これが放送者がこの CM を選んだ理由だろう。

ただ、この作品はコミュニケーションができない状態を示すことで「寂しさ」も表現している。被害を受けていない人にとっては大切な人がいるのだから、その人たちを大切にしようとする言葉だが、被災した人たちにとっては、いつも挨拶をすれば、挨拶を返してくれていた人たちがいなくなったことを痛切に感じさせるに違いない。つまり、『こだまでしょうか』は心が温かくなるいい作品だが、一方で被災した人たちにとっては喪失感を強く感じさせると受け取った人もいるのだろう。

この研究では当初考えていたが、できなかったことがいろいろある。最初、坂島の批判は『こだまでしょうか』という作品の内容に関係があると思った。しかし、インタビュー調査を行うため、坂島のブログを何度も読み返すと、実は坂島は『こだまでしょうか』について何も書いていないことに気づいた。そして、AC ジャパンが『こだまでしょうか』を使ったのはこの詩の内容が大震災に関わると思ったのだが、参考文献の日本語が難しく、よく理解できなかつたり、様々な情報に惑わされもした。結局、参考文献をじゅうぶん理解できるまで予想より時間がかかってしまった。これは反省しており、これからは理解できないことがあれば、いろんな人にすぐ聞くようにしたい。またこの研究を行う中で知った近代の「童謡運動」がひじょうに興味深く、機会があればこれについても研究してみたい。

参考文献

- 彩図社文芸部編纂 (2011) 『金子みすゞ名詩集』、彩図社
畑中圭一 (1990) 『童謡論の系譜』、東京書籍
畑中圭一 (2007) 『日本の童謡 誕生から九〇年』の歩み』、平凡社
山下聖美 (2011) 『女脳文学特講』、三省堂
矢崎節夫 (2002) 『金子みすゞ ころの宇宙』、ニュートンプレス
矢崎節夫 (2013) 『金子みすゞの110年』、JULA 出版局
特集広告市場/メディア再編 (2011) 『東日本大震災時のテレビ CM の扱いはどう進展するかー AC ジャパン広告の会計約 4 万回の影響は一』、月刊放送ジャーナル：ミニコミの総合誌
読売新聞 2006 年 4 月 20 日版

ウェブサイト

- AC ジャパンホームページ https://www.ad-c.or.jp/about_ac/index.html
AC ジャパン CM 『こだまでしょうか』 (英語字幕付) AC Japan Commercial English Subtitled
<https://www.youtube.com/watch?v=A7g9q2NI5WE>
Dosanko Debbie's Etegami Notebook
<http://etegamibydosankodebbie.blogspot.jp/2012/01/layers-of-snow-misuzu-kaneko-series-4.html>
『坂島明彦 (作家) の「ちょっとあぶない雑記帳」』
<http://ohkowa-omosiro.cocolog-nifty.com/kotvabannba/2011/03/post-09f2.html>
『新・なまず日記』 <http://endoh-namazu.tierra.ne.jp/diary/?date=20111105>
『読書のススメ』 <http://blogs.yahoo.co.jp/mepochzo/33454938.html>

アンケート用紙

『こだまでしょうか』	こだまでしょうか、 いいえ、誰でも。	みんなちがって、みんな いい。
「遊ぼう」っていうと 「遊ぼう」っていう。	『私と小鳥と鈴と』	『大漁』
「馬鹿」っていうと 「馬鹿」っていう。	私が両手をひろげても、 お空はちっとも飛べないが、 飛べる小鳥は私のように、 地面を速く走れない。	朝焼け小焼けだ 大漁だ 大羽鯛の 大漁だ。
「もう遊ばない」っていうと 「遊ばない」っていう。	私がからだをゆすっても、 きれいな音は出ないけど、 あの鳴る鈴は私のように たくさんな唄は知らないよ。	浜は祭りの ようだけど 海のなかでは 何万の 鯛のとむらい するだろう。
そうして、あとで さみしくなって、	鈴と、小鳥と、それから私、	
「ごめんね」っていうと 「ごめんね」っていう。		

金子みすゞの詩の読者反応アンケート

このアンケートは「金子みすゞの詩の読者反応の分析」という研究のために実施するものです。
頂いた回答はアンケートの目的以外には一切使用いたしませんので、
率直なご意見をお書きください。

回答期限は 年 月 日

どうぞよろしくお願いします。

- 1) 金子みすゞという詩人をご存知ですか。
 - a) はい
 - b) いいえ
- 2) (付属ページをご覧ください) この三つの詩のどれかを読んだ(聞いた)ことがありますか。
 - a) はい
 - b) いいえ
- 3) どこで読み(聞き)ましたか。(複数選択可)
 - a) 教科書(小/中/高 ____ 年)
 - b) テレビ
 - c) ラジオ
 - d) インターネット
 - e) その他 _____
- 4) この詩を読んで感想をお書きください。

ご協力どうもありがとうございました

追記

この研究のために、できればこの詩について感想を詳しく伺いたいと思っています。
インタビューを受けてもいいと思われる方は下欄にご記入下さい。

名前 _____

カナ _____

性別 男 / 女

年齢 _____ 歳

出身地 _____

連絡先 _____

(電話番号・メールアドレス・LINE ID など)

金子みすゞ記念館（2014年5月24日訪問）



金子みすゞの旧宅



金子みすゞ記念館



みすゞの部屋



金子みすゞ立体モザイクアート



『手のひらの詩』



金子みすゞのお墓